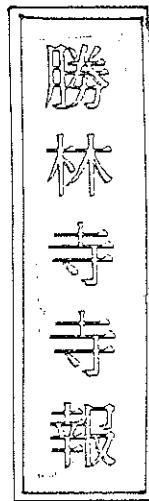


蓮如上人がたり



ご文章

淨土真宗では、おつとめやご法話の後に、かならず『ご文章』が読み上げられます。

おつとめやご法話からいただいたご信心を、蓮如さまのお書きになつた、やさしい文章によって、もう一度、確かめさせていただくために読み上げるのです。

ところで、この『ご文章』は、蓮如上人が、お弟子や門徒衆に出された「お手紙」には違ひありませんが、いわゆる私信、特定の個人宛てたものではありません。

「この文、お集まりのみなさんの前で読み上げて、みんなして、これを種に、話し合ってください」

こんな願いをもつて、従つて、「一文不知(いちもんふち)」と言われる教養知識をもたない人、「猶・すなどり」の仕事に忙しい人にも理解できるやさしいことばで、しかも手短に。方言俗語を交えながら、真実真宗のみおしえを、書き広めてくださったものが蓮如さまの『ご文章』です。

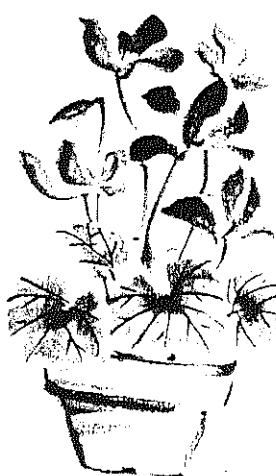
宗教にかかわりをもつ人が、ともすれば陥りがちな「もののしり顔」「こころえ顔」「わがみあり顔」などを厳しくいましめつつ、他力信心にめざめさせていたいた者の、報恩の生きざまを、簡単明瞭にやさしく指し示してくださいました

本願寺第八代ご門主になられた四〇代半ばから、八五歳で亡くなるまで、蓮如さまは、「南無阿弥陀仏」のお掛け軸と、この『ご文章』とを、数え切れないのでお書き続けになりました。

罪悪深重の悪人こそ救いのめあてと呼んで下さる如来さま。

文字も知らず愚痴きわまりなきひとびとと共に生きられた親鸞様。その「淨土真宗のこころ」を蓮如さまは、ことに「われら女人、尼入道」たちと座を同じくし、この『ご文章』を軸にして聞き合い語り合い、「聖人ご一流をみごと再興」くだけたのが蓮如上人であります。

蓮如上人の500回遠忌法要を、わたしたちは平成一〇年に迎えようとしています。



十月三日
葬儀
澤田 しな様 東京・東雲

十月二十二日 上小田

田村一一一男様



十一月のことよみ

四日

兼井隆雄氏宅法事
八代光顯寺報恩講

本覺寺報恩講

玉井克弥氏宅忌明法事
光顯寺報恩講
本覺寺報恩講

草津順光寺結婚式

山田由太郎氏法事
高福寺報恩講
大石昌一氏宅法事

西方寺報恩講

西方寺報恩講
出石組
十六夜会定例法座(真覺寺)

西方寺報恩講

兵庫教区企戦没者五〇回忌追悼法要
福成寺報恩講
季研修会

西方寺報恩講

全戦没者追悼法要
十六夜会定例法座(真覺寺)

西方寺報恩講

足立幸夫氏宅法事
法消掃拂奉仕(昼)

西方寺報恩講

おみがき・莊嚴奉仕(夜)

西方寺報恩講

正福寺報恩講
勝林寺守報恩講

西方寺報恩講

岩出辰太郎氏法事
田村春雄氏宅忌明法事

西方寺報恩講

成田馨氏宅法事
みのりを聞く会定例法座

西方寺報恩講

玉井克弥氏宅祥月
みのりを聞く会定例法座

西方寺報恩講

おみのりを聞きましょう
お参りください。
お参りください。

送迎バス(二十一日)
◇栗尾発
◇榎見発
七時↓

兵庫教区
門徒総代研修会に参加して

勝林寺門徒総代四人。初秋の但馬丹波路を一台の乗用車で南にひた走り、会場の神戸別院に着きました。新築成った神戸別院は、さすが「平成のモダン寺」と讃えられる立派な寺院でございました。早速本堂にお参りし、巨大な阿弥陀さまの尊像をおおぐと、格別の感激のなかに心暖まる心境でございました。

あの阪神大震災の災害のなかを、くぐり抜けるようにして完成したこの寺のご本尊であるだけに、被災された方々を、また今年ここで五〇回忌の勤まる全戦没者・戦争犠牲者を、この如来さまは永遠にお見守り下さつて、るようthoughtいました。

別院(研修センター)の広大な内部には、兵庫全域に、お念佛の輪が伝わり広がっていくような、機能的な施設設備が完備しており、本当にありがとうございました。

久堀弘義先生の「現代の諸問題」と題するご講義のメモ。

基幹運動(門信徒会運動・同朋運動)をすめに当たっては、つねに親鸞聖人に帰らねばならない。

親鸞さまが関東在住二〇年間に築いた「関東原始教団」といわれる新社会の特徴は①呪術から解放された、迷信にまどわされない社会。②人格の平等が認められる社会。③全員が聞法し全員が伝道者である社会。

この親鸞聖人による、一人一人が自己の体質を変革し真の念佛者になろうということが、この運動の基本である。

佛教は転迷開悟。どんな人をも、私のようなものも、隔てなく救うとはらいてくださる如来さまのご本願(眞実の法)をより所に、今日の一日を生きさせていただく。如来さまの無量寿、計り知れないおおいなる眞実の生命へ帰命した生活。感謝・お蔭さまのくらし。思いやりの生活。生かされて生きる生活。これこそ如来さまの呼び声を素直にうけとめた念佛者の生き方でありましょう。

健康・地位・名譽などを当て頼りに生きていますが、それらは絶対的・不動なものではない。極めて不安定であり、破綻は必然です。如来さまからの働きかけによって、呼び声に耳を傾けてこそ、大安慰といわれる安らかな喜びの生活がおくれることでしょう。

「正信偈」(草譜・行譜)の練習もさせていたいた、本当にありがたい一日でありました。

(報告者 総代 生田善七)

秋忙工のなかに

昨日、わたしは幸い欠席なしの皆勤で勉強しました。二年間十二回にわたる連続研修でした。その「連研」最終回のきのうのお勉強は、「お念佛いただいているものの生き方が、わたしは幸い欠席なしの皆勤で勉強させました。」ともいうものでした。

仏教は中道・空・無我のおしえ。

それぞれの立場や利益にこだわり偏つて、差別しあつたり、争つてはならぬ。お釈迦様のおしえた縁起の法は、だれも、なにものも、あらゆるもののが支え合ふ。そのなかで共に生きているものだから、その自然のままのいのちを生きようではないか。

ここに浄土真宗のお念佛は、「有ると無いとか、大きいとか小さいとか、とにかく無いとか、依怙地などちっぽけな命に生きるのではなく、広大無辺、無量の命に寄りかかり、道俗時衆共に同心に生きなさい」という如来様はじめ親鸞さまの呼び声であるのだ、ということでおありました。

ところがその講義のあとでの話し合い法座では、「先生のはなしは、話としては分かるけど、我々の実際の生活で、立場や利害で対立するな、競争するな」と言つたんでは、どうしようもないではないか。第一では、世の中の進歩というものはなれない。子供の勉強だって、あの子に負けてはならないもののかと励んでこそ成績も向上するなんの中道・空。共に寄り添つて生きるなんとて、」という結論になってしまった。

ところが今日の町民運動会。区対抗の運動会でしたから、何もかも忘れて必死に我が区の勝利を願い応援した。一日でした。

なんと総合得点優勝の区が二つできてしましました。本来ならジャンケンでもして優勝・準優勝を決めるはず。なのにAチームはいいます。「私の区は去年優勝旗をもらいました。ですから今年はBの区にゆづります。」B区の人達が言いました。

私たちも力いっぱい頑張って楽しませてもらいました。優勝の栄誉はA区さんにゆづります。」

審判長さん困って、「優勝旗はBに、優勝賞品はA区に、アイコにしましょ」という審判裁定に、全グランドからの大拍手が送されました。

兵庫教区は、折あしく、別院(教化センター)改築中でもあり、また彼の大震災のこともあり、今日まで法要延期を余儀なくされました。今般、神戸別院建築完成をまって、十一月十六日・十七日に日を分けてお勤まりになります。

勝林寺からは、住職(三要出勤)と遺族代表三名が参列いたします。

兵庫教区
企画実行委員会

勝林寺では敗戦時に亡くなつた方の五〇回忌に当たる昨年、全戦争犠牲者を追悼する法要を、門信徒あげてお勤めしました。

テレホン法話